藤女子大学人間生活学部紀要，第 53 号：95-106．平成 28 年．
The Bulletin of The Faculty of Human Life Sciences, Fuji Women's University, No. 53: 95-106. 2016.

ベトナム　ベンチェ省におけるSVCA 活動に参加して

鈴　木　真知子

A Report on Participation in the SVCA Program in the Ben Tre Province, Vietnam

Machiko SUZUKI

Abstract

The author participated in a volunteer program from August 2 to August 9, 2015, sponsored by the Support of Vietnam Children Association (SVCA), a non-governmental organization (NGO).

The SVCA was established 25 years ago, when Akemi Bando launched support activities in cooperation with her friends in the wake of her visit to Vietnam, where she found children in Vietnam in a very miserable situation, with poor educational opportunities and lacking medical and welfare services. The SVCA's activities, which were started in the Kansai region, have been continued to the present day and have spread nationwide. SVCA-registered members can be found in various parts of Japan. The purpose of this visit was to provide cooperation in staff training at the Disabled Children's Development Support Center, which was just established at the request of the Ben Tre Province.

The SVCA's activities during this visit are presented in this paper to give a brief outline of the visit.

はじめに

ベトナム戦争が終わっておよそ 40 年。荒廃したベトナムを訪れた関西の有志によって、ベトナム支援の機運が起こり、「ベトナムの子ども達を支援する会」(以下 SVCA)（SVCA：The Support of Vietnam Children Association の略）（NGO）団体が結成された。この活動が本年 25 周年を迎えた。この節目に、縁あって、この活動に参加する機会を得た。

草の根として、地道に継続されてきたこれまでの活動を概観、本年度の SVCA 活動を紹介することを通してこのような草の根の活動の意義を検討する。

1　ベトナム国について

南北に細長いベトナムの正式な国名は、ベトナム社会主義共和国（Socialist Republic of Viet Nam）といい、面積は、32 万 9,241 平方キロメートル、人口は約 8,416 万人（2006 年）で、首都はハノイである。キン族（越人）約 86%、他に 53 の少数民族で構成され、言語はベトナム語である。気候は、熱帯モ

所属：
藤女子大学人間生活学部保育学科
Department of Early Childhood Care and Education, Faculty of Human Life Sciences, Fuji Women's University

ンスーン気候帯に属し、雨季と乾季を有する。5 月から 10 月までが雨期、11 月から 4 月までが乾期であるが、南北に長いため、北部には四季がある。

1000 年に亘る中国に支配され、その後、フランス植民地となり、1950〜60 年代にはベトナム戦争を経験した。1980 年代のドイモイ政策から市場経済に基づく近代的な発展を遂げてきている。しかし、1980 年代はベトナム戦争までの長い戦いで国は疲弊しきっていた。この窮状に対し、各国及び各国の民間団体が様々な支援の手を差し伸べた。日本で結成された SVCA もその支援団体の一つである（SVCA ホームページより一部抜粋）。

2　SVCA の結成の経過

SVCA（The Support of Vietnam Children Association）は、1990 年 4 月 30 日に設立した NGO で、ベトナム南部ベンチェ省、北部バクザン省の障がい児（者）教育、リハビリテーション、母子保健を中心とした取り組みに関わり続けて、本年で結成 25 周年を迎えた。構成メンバーは、設立者の板東あけみさん（元教師、現事務局長）を中心に福祉・教育・医療に携わる人々、民間ボランティアの方々で、その輪は全国に広がっている。SVCA のホームページによると、活動目的は、障がいのある子ども達の医療・保育・教育・福祉に関する現地専門家や協力者の研修、CBR ハンドブック等の研修用資料の作成、産科、小児科、リハビリ科関係の病院や村の診療所の医療機材の購入、障がいのある人達への医療機材の購入、栄養失調の子どもへの支援、新生児ケア/小児循環器、小児腎臓分野の技術協力などが挙げられている。

3　SVCA に参加した経緯

かれこれ 10 年くらい前、関西や東京の友人から SVCA の活動を聞くチャンスがあった。2 年前、その友人の依頼でホーチミン市にある国立の産婦人科基幹病院の TUZU 病院で、摂食障害研修をボランティアで行った。その後、TUZU 病院での活動は途絶えていたが、たまたま今年は、活動日程が夏季休暇中と都合がついたので参加することにした。

今回の活動は、ベンチェ省中心で TUZU 病院の訪問はなかったが、ベトナムの田舎での活動とはどんなものかと関心が湧いた。

4　SVCA の活動日程（資料 1 ：別紙）

今回の SVCA の活動に参加する者は、団長初めとして総勢 54 名の大人数である。参加者の構成は、障がい児の親子 2 組、医者、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の医療関係者、ケースワーカー、保育士、指導員などの福祉関係者に加えて学生、教諭、一般からの参加者（主婦、茶道教師など）と多彩であった。今回は、ベンチェ省が 2016 年度に障がい幼児のための支援センターを開設するための関係者の事前研修を目的にしたプログラムを展開するということでこれまでの活動とは異なっていた。この活動を日程順に紹介する。

8 月 2 日（活動初日）

この活動に参加する 54 名が、北海道、東北、関東、関西、九州と全国からそれぞれの移動方法で、ベトナム、タンソンニャット国際空港に合流し、ベンチェ省行きのバスに乗り合わせ 3 時間、活動の起点

となるブンブンホテルに到着した。そこで、各自の部屋にトランクを置いたところから活動が始まった。まず、ベンチェ省人民委員会（県庁のようなところ）に表敬訪問し、ベンチェ省人民委員会並びに関係機関、省立グエンデンチュー（以下 NDC）病院、保健局、教育研修局などの代表と会議を行った。3日から8日までの活動日程を確認したのち、SVCA の 25 周年を祝って人民委員会から 25 年間継続してきた活動に感謝の意を込めて感謝状が代表に手渡された。また、この活動に功績のあった板東さん、この活動を推進する目的で大金を寄付した大阪のメンバーに感謝状が贈られた（写真 9）。その後、御舟の上でベトナム料理のおもてなしを受けた。ベンチェ省の役人は国民服、特に女性は、美しいアオザイを着用していた。これまでにこの活動に参加してきた方々は、以前に新調されたアオザイを日本から持参して着ている方も多かった。私のように初参加のメンバーは、公式の招待なのでドレスアップしていくように指導を受けた。

8月3日（2日目）

今回の活動の中心になる障がい児学校へ出発した。障がい児学校校長兼新しくできる支援センター長から支援センターの概要についての説明受けた。会議終了後、障がい児学校を視察した。その後、①NDC 病院研修班&NDC 病院の視察を希望する SVCA メンバーと②NDC 病院見学に参加しなかったグループの二手に分かれて、①グループは、ベンチェ省立 NDC 病院（ベンチェ省最大かつ最新の医療設備整っている）へ移動した。病院の会議室で病院側と医療に関する今回の研修に関して会議が開かれた。その後、リハビリ科、小児科を見学した。リハビリ科、小児科の病室は患者が溢れ、特にリハビリ科は廊下にも入院患者ベッドが並んでいる状態であった。リハビリ室は狭くリハビリ機具も少なかった。小児科は新生児、とりわけ早産未熟児のための NICU も数台配備されていたが、日本の NICU と比較すると細菌や感染、光や騒音など衛生管理・設置環境はかなり劣悪であった。

②グループは、障がい児学校での研修会や障がい児学校で例年行われるお祭りの打ち合わせ、お祭り用の買い物を行った。夕食後、各分担の講習会の打ち合わせやお祭りの準備を開始した。

8月4日（3日目）

障がい児学校にて全体研修会が行われ、ベンチェ省側から現在の早期発見・早期療育、療育システムに関する取り組み状況について、講義がなされた。日本側からも同様の見地から日本の現状について報告があり、意見交流の場となった。

1）ベンチェ省側の講義

①障がい児学校校長兼障がい児支援センター長 THUY 先生は新センターの紹介をされた。

② NDC 病院小児科 Phuong 先生は、胎児期から出産期における障がい兆候について講義した。

③教育研修局の児童教育課 Binh さんは、1）幼稚園期の障がい児の認定、2）学校期の障がい児とその親を支援する計画、3）自分の学級で障がい児を教える教師の困難について報告した。

④ベンチェ省医療予防センター Thao さんは、CBR の活動、即ち、地域における障がい児の把握と経過観察、障がい児とその家族に対する支援計画などについて報告した。

2）日本側の講義

① Dr 野中先生が、小児科医から見た日本の早期支援の紹介した。

② PT 甲斐さんは、理学療法士から見た日本の早期支援の紹介した。

③保育士の藤田さんは、幼児保育の専門家から見た日本（京都府での取組み）の早期支援ついて報告した。

研修には、教育研修局の代表、社会労働傷病兵局の代表、障がい児学校と新しいセンターの全職員、幼稚園の代表、CBR 委員会の代表、貧困者・障がい者・孤児支援協会の代表、NDC 病院の小児科とリハビリ科の代表、保健局の代表が参加していた（写真1、2）。

写真１　講義する様子

写真２　講義と聴講する様子

８月５日（４日目）

研修会は、①障がい児学校と②NDC 病院の２会場で行われた。ここに講義の概要を示す。

１）障がい児学校における研修会（am８：00～pm 16：00）

午前午後を通して、５つの講義、プレゼンティーションが行われた。この講義は、日本にいるうちに、大まかな内容検討、プログラム作成、タイトル及び内容について、email で活発な議論がなされ度々修正・加筆されたものである。が、現実にベトナムのベンチェ省に来て、ここ数日の暮らしぶりをみていると、今回、持参した内容が総てタイムリーな内容であったかどうかは、今一度検討する余地がある。例えば、日本の早期療育、地域支援システムの紹介は、まだ、この国の実情では実践が難しいと思った。しかし、日本の療育の水準を示し、将来のベンチェ省の療育に一定の指針は示すことができたと思われた。私見であるが具体的な実践報告や遊具などの工夫など日々の実践に役立つ内容であったと思った。講義の内容は、下記のとおりであった。

①　日本の特別支援教育：特別支援学校教諭
②　コミュニケーションの発達：言語聴覚士
③　日本（東京都、多摩地区における）の医療ソーシャルワーカーの仕事：社会福祉士・ケースワーカー
④　親の思い：ダウン症の子を持つ母親
⑤　障がいのある子ども達や家族の人達とかかわる中で学ぶこと：指導員

２）NDC 病院における研修会（am８：00～pm 16：30）

こちらも、終日、５つの講義とプレゼンテーションを行った。講義の内容は下記のとおりである。私は、こちらに参加していなかったので、タイトルを示すにとどめる。

①　呼吸管理のリハビリテーション：理学療法士
②　ケーススタディ（NDC 病院の小児科、リハビリ科の入院児童）：理学療法士
③　装具について：理学療法士
④　痙性麻痺と弛緩性麻痺の判別について：理学療法士
⑤　今後の研修について：全員

８月６日（５日目）

研修は最終日を迎えた。午後は、待望の祭りである。

１）全体研修会（障がい児学校　am８：00～11：45）

療育の根幹をなす、生活を中心にしたリハビリテーション、遊びについて講義やプレゼンテーションを行った。生活とリハビリテーションは、作業療法士が担当し、幅広い報告を行った。また、遊びや環境調整を通した子どもの変化についても写真等視覚的にもわかりやすく工夫された内容を提示した。

2）午後　お祭り

最大のイベントである祭りは、様々な角度から企画された。プログラムは、下記のとおりである。

プ　ロ　グ　ラ　ム

1）障がい児学校生徒の音楽や踊り
2）日本の障がい児の踊り
3）ブースでの活動
・障がい児学校と職業センターの製品の販売ブース
・日本伝統文化紹介（茶道と書道）2ブース
・日本の遊びの紹介のブース　3ブース
・自助具や訓練用のおもちゃの展示紹介ブース

参　加　者

NDC病院の小児科とリハビリ科
保健局、教育研修局、
社会労働傷病兵局、
障がい児学校と新しいセンターの職員、幼稚園、CBR委員会、貧困者・障がい者・孤児支援協会、障がい児を育てる20家族、ぶんぶん学校生ら　約200名

プログラムのフィナーレ、お祭りプログラムが午後企画された。最初に、ベンチェ省から障がい児の歌とダンス、日本から子どもたち（ダウン症）を中心にSVCAのメンバーでダンスが華やかに行われた（写真3、4）。

写真3　ベンチェの子どもたちの歌と踊り

写真4　日本側の踊り

その後、折り紙班、輪投げ班、書道班、茶道班、ヨーヨー掬い班に分かれてブースの準備をした。このお祭りの準備は、ブンブンホテルに到着した夜から各グループ毎に準備が進められた。私は折り紙班を希望して折り紙班のグループに参加した。まず、手本を見ないで折れるもの以外は、兜、飛行機、カエルなどは手本を見て考えなくても折れるように何度も何度も折って練習した。前日は、どのようなレイアウトにするか、誰がどの折り紙を分担するかなどを話合った。当日、障がい学校の広い回廊の廊下に多くの出店が並んだ。私たちも机を確保しかわいらしく飾りつけをして子どもたちが来るのを待った。たくさんの子どもたちが来た。チケットを見せて、本人が、兄弟姉妹が折り紙コーナーにやってきた。ピカチュウ、兜、カエル、鶴を折りたい子どもが多くとても賑わった。隣のコーナーでは、地元の葉っぱをナイフで細く割いて編みこむ細工が人気だった。魚、腕時計、花など多彩な細工に関心が集まった。また、書道では、祭り等の文字を筆で書いていた。向かい側では、茶道班がお菓子と供し、点てたお茶を飲んでいただくために忙しく立ち働いていた。ヨーヨー掬いコーナーは、輪投げにも子どもたちが集まっていた。終わってみると、200人以上の方がこの祭りを訪れていた（写真5、6）。

8月7日（6日目）

ベンチェで過ごす最終日、ベンチェ省人民委員会の会議室で全体の反省会を行った。昼食後、念願の家庭訪問を3つの班にわかれて行うことになった。

写真５　ベンチェの工芸品ブース

写真６　折り紙班ブース

私は第２班に振り分けられたので、この２班で訪問した家庭について報告する。

家庭訪問

２班の家庭訪問先は、祖母、母　子ども２名の母子家庭であった。通訳者、現地のケースワーカーとともに訪問。家は、奥まったところにある一戸建てで、玄関を入るとすぐ小上がりのようにところがあって祖母が腰かけて本児を抱いて待っていた。４歳、CP の男児。（写真）

家族：祖母、母、姉（７歳）と男児の４人暮らし。祖母が主介護者。母　主として稼働。

男児の父はいなくなった？が、遺伝性の目の障がい（白内障）があり、姉と男児の二人とも手術をしている。姉は眼鏡をかけており、障がい児学校に登録している。

病歴・生育歴：出産は 7.5ヶ月の早産で、NDC 病院で、普通分娩。体重 1.6 kg。１ヶ月入院加療。１週～２週に一回は発熱があり、熱が出るたびにてんかん発作が出る。

一度、熱が下がらず、呼吸困難、チアノーゼで、入院したことがある。通常、発熱時は薬局の薬を飲む。母子手帳は字が読めないため、記入せずに捨てた。

身体状態：伸筋優位、末梢痙性高、未定頸。座位保持不可。日常は臥位中心。食事は祖母の抱っこ。現在、寝たきりで、時々座らせたりする。

困っていること：最も困っていることは、お金と世話。特に食事。収入は、母の内職（ココナツキャンディの包み紙を巻く）。国と町？から経済的支援あり。

現地で取り組んだこと：

①日常の姿勢：祖母が抱っこしていることが多いので、他の手段がないか模索したが、家にある椅子では１人で座ることは難しく諦めた。

②食事：実際にしている食事の仕方をみせてもらう。祖母が抱っこし、スプーンで食物を口に運ぶ。食形態は、コメに汁を混ぜ合わせたもので米粒がしっかり残っている。スプーンは、レンゲを大きくしたような金属製のスプーン。スプーンの前方３分の一くらいの量を口中に入れる。入れた途端に咬反射が出現。体は後方へ伸び、咬みこみがきつくなるが祖母は無理やり引き抜く。何度か口中を動かす様子の後、嚥下音が聞こえるが、度々咽こむ。口中には、米粒がたくさん残留。この摂取パターンを繰り返す。

食物摂取に関する評価と示唆

１　食形態：日本の後期食レベルで、本児の摂取できる口腔機能との乖離が顕著であった。→すりこぎなどでつぶして与えてみる

スプーン：本児の口腔容量から見ると大きすぎる→小さめのスプーンがあれば

一口量：一回の量が多すぎて口の中で処理できない

写真７　食事の様子

写真８　遊びの工夫

与え方：スプーンを奥の方に入れ過ぎない→誤嚥の原因、呑み込み音を確認して次を入れる
誤嚥の防止：姿勢が大切。頭頸部を後方にそらせないように留意

③　行動観察と遊び

本児の背後から抱くことで、机上の遊びを誘ってみる。見知らぬ人に対する警戒心が強い。初めは、度々祖母の方に助けを求めるように見る。全身が緊張で固くなるが徐々にリラックスしてくる。開始時、両拇指内転で固く握りこみ、肘屈曲状態であったが、後半、拇指は開き肘も伸展状態が保たれるようになってきた。本児が遊べるような適当な遊具、ボールや音の出る遊具などなく、止む無く持参してきたサインペンでお絵描きを誘った。

しかし、レベルが高すぎた。最後に、手遊び歌を歌ってみたが、日本語の歌は反応せず、ビン先生（ベトナムの保育園の園長）の母国語での歌に笑顔が出た。何度も期待してビン先生の方を見る。ビン先生が歌いだすと笑顔が出た。言語の理解がある様子。追視、発声（吸気）などが、徐々にみられるようになる。後半、表情が優しくなる。苦しそうだった息遣いが楽そうになった。深く息を吸う様子が見られ強い吸気に伴う音が聞かれたが、有性発声には至らなかった。食事の姿勢、食形態、方法などの指導と座位での遊びの提案をさせてもらう。

４時、ベンチェ省人民委員会と関係機関の代表との今回のまとめと次への課題について会議を行った。その後、ブンブンホテルで人民委員会や障がい児学校長などを招いて最後の夕食会を行って活動を締めくくった（写真９）。

８月８日（最終日）

朝食後、チェックアウト。ブンブンホテルを出発しホーチミン市へ向かう。その後自由行動となり、私は数人の方々と先回のベトナム訪問で体験したアロマセラピーに出かけた。夕方、空港近くのレストランで打ち上げを行った。この短期間の活動で参加した多くの方々と親しくなり別れを惜しんだ（写真10）。

活動を振り帰って

本年度のSVCA活動に参加して、いろいろな面での学びを得た。

まず、25年まえに関西を中心にしたベトナムを支援するシステムが自然発生的に生まれ、この草の根の活動が口コミ、ホームページ上から広がり、全国から多くのメンバーが参加していることを知った。参加メンバーも、板東さんを中心に、医師、看護師、PT、OT、STなどの医療関係者、施設長、教師、保育士、指導員、ケースワーカー、茶道講師、障がい児の親子、一般の方など多士済々だった。現地では、JICAがベトナム各地に派遣している海外青年協力隊（PT、OT、ST、教師）が参加し、現地の方

写真 9　ベンチェの主催者と SVCA 代表

写真 10　お別れ会のテーブル

と橋渡しをしてくださった。ホーチミンで活躍されているベトナム人の専門家の方々も数名ボランティアで参加してくださった。ベトナム人と日本人の親しい交流があった。

私の参加した今回のベトナムにおける SVCA の活動は、ベンチェ省の意向を受けてその意向に沿う方向で準備を進め、プログラムを展開するスタンスであった。即ち、email を有効に活用し、依頼内容を公開し、ベンチェ省から送られてきた依頼文に基づいた検討が、SVCA メンバーに email で送信され、メンバーから email で意見が流される。全員参加型の意見交換が活発になされた。現地で活動された経験者は特に、実態を踏まえた提案をし、数々の修正提案に基づいて作成されたプログラムをベンチェ省に提示しその返事を待って修正をするという過程を何度か経た後に、開催プログラムが決まった。それぞれの専門性に基づいた各自の分担を決め、次に、講義内容についての意見交換をメイルでメンバーに送信し意見交換を行うというスタイルだった。総てを公開し、その内容について全員で討議するという方式に戸惑ったが、この方式が SVCA 方式なのだと理解した。そして、この運動が 25 年間も営々と続けてこられた源泉が此処に会ったのだと活動が終了して振り返ってみた時に気づかされた。

また、今回の活動には、以前 JICA 青年海外協力隊で、ベトナム活動した経験のある若者が数名含まれていた。メンバーの中には、近じか青年海外協力隊で海外に派遣される予定者が 2 名含まれていた。更に、現在、現地で活動されている JICA 青年海外協力隊のメンバーが活動開始時から終了まで参加し、最終日の打ち上げでは、参加してよかったということばがたくさん聞かれた。学生で参加した若者、日本で働いている若者たちにもよい刺激になったようだった。

現地に入ると、早朝から深夜まで続く活動に驚かされたが、誰一人そのことを苦情いう人もなく、その活動を楽しんでいることにも驚いた。後期高齢者ですと笑顔でおっしゃる茶道教師は、私たちのために夜お手前をしてくださった。美味しいお茶だった。また、このお茶手前のために、全国から参加したメンバーが各地の銘菓を持参し、夜は美味しいお菓子とお茶に舌つづみをうちつつ、いろいろな話をした。女性群は、アオザイを新調し最後のパーティーでその新調したアオザイを着てパーティーを楽しんだ。ハードな中にもユーモラスであったり、あでやかで華やかなアオザイの生地選びがあったり、緩急のある活動であることも魅力なのだと思った。

結び

今、ベトナムは経済的に急成長を続けており、数年前に、ホーチミンを訪れた時と比較してもその発展ぶりには驚くばかりである。しかし、その一方で、地域では訪れた家庭訪問先の貧しい暮らしぶり、字が読めないから母子手帳は配布されたが投げたということばに示されるように貧富の差は著しいものがある。この活動が、今後どのように展開されていくのかは誰もわからないが、国を越えて助けを求め

る人々や子どもたちのために今、できることを億劫がらないで、さりげなく日常の当たり前のことのようにお祭りのように楽しみつつその国の思いに添って継続されてきたことが素晴らしいと思った。最後に、この活動のきっかけを作った板東あけみさんは、障がいの予防・早期発見のために、母子手帳の使用をベンチェ省側に提案し、SVCA が当初の印刷資金を寄付した。その活動は定着し、障がい児の発見に役立っていると聞いた。ベンチェ省では、現在、省予算で母子手帳を作成して配布している。また、この取り組みを政府のベトナム保健省が注目し、JICA の技術協力事業を受けて政府版の母子手帳ができた。2015 年にはベトナムの 7 省で使用されている。もちろんベンチェ省もそのうちの 1 つの省である。小さな種が播かれ、その種がゆっくり時間をかけて実をつけてきた過程やその成果を今回目の当たりにした思いであった。また、活動を終えた SVCA メンバーの満面の笑顔の中に手ごたえを、充足感を持って実践されてきたこの地道で息の長い活動の真価をみたような気がした。その場にいた者だけが共有できた貴重な時間であった。なお、2016 年度も 7 月 31 日よりベンチェ省へ行く 1 週間のツアーが企画されている。

参考・引用文献

1　SVCA ホームページ（活動履歴）http://space.geocities.jp/svca84/
　SVCA Facebook（最新情報）https://www.facebook.com/svca1990
　これは公開設定してあるため，facebook アカウント（登録）のない方でも閲覧可能

2　板東あけみ：ベトナムの母子保健，障害児対策事業への協力，「ノーマライゼーション　障害者の福祉」 第 26 巻　通巻 262 号 2003 年 5 月号　㈶日本障害者リハビリテーション協会発行．

2015年CBR活動における技術協力班の日程

2015.07.17　SVCA

目的：1）早期介入のためのセンターの活動のための講習会
　　2）省立グエンディンチュー病院のリハビリ科の職員のための講習会
　　3）新しくできる早期介入のためのセンターの紹介と啓発のための催しの実施

メンバー：41人の「ベトナムの子ども達を支援する会」日本人、7人のJICA海外青年協力隊員、2人のベトナム人の専門家、4人の通訳　計54人です。

	時刻	主な活動	要請する参加者	要請する会場	財源	準備物
2日（日）	午後	空港到着　成田から午後1時30分着、関空から午後1時50分 午後2時30分に国際ターミナルの到着ゲートで待ち合わせ				ベンチェ省からの迎え不要 大型バスチャーター
		大型バスに乗ってベンチェ省へ行く				
	17：30	夕食　自己紹介など		ブンブンホテル		
	19：30	アオザイの布選びと採寸並びに必要なパートは打ち合わせ				
	時刻	主な活動	要請する参加者	要請する会場	財源	準備物
3日（月）	07：00	朝食		ブンブンホテル		
	07：45	全員障がい児学校へ出発		ブンブンホテル		車4台
	08：00	講習会打ち合わせ、センターの状況について視察、お祭りの打ち合わせ並びに買い出し	障がい児学校と新しいセンターの職員代表	障がい児学校		車4台
	10：00	NDC病院に行グループと市場へ買い出しに行くグループに分かれて出発				
	10：15	NDC病院研修班とNDC病院の視察を希望するSVCAメンバーはNDC病院へ移動。今回の病院での研修の希望内容について詰めた相談とリハビリ科、小児科の見学		省立グエンディンチュー病院		
	10：20	手分けして、市場で必要なものを買う			SVCA	
	12：30	昼食		ブンブンホテル		
	13：30	ブンブンホテルから出発				徒歩
	14：00 16：00	ベンチェ省人民委員会並びに関係機関代表との会議 1）メンバー紹介 2）3日から8日までの日程確認 3）ベンチェ省側から新センターの概要についての説明 （SVCA全員と通訳など、約50人）	1）人民委員会 2）NDC病院、 3）保健局、 4）教育研修局、 5）社会労働傷病兵局、 6）障がい児学校と新しいセンター、 7）CBR委員会、 8）貧困者・障がい者・孤児支援協会	障がい児学校		
	17：30	夕食		ブンブンホテル？		
	20：00	講習会の打ち合わせ、お祭りの準備		ブンブンホテル		
	時刻	主な活動	要請する参加者	要請する会場	財源	準備物
4日（火）講習会1	06：30	朝食		ブンブンホテル		
	07：15	ブンブンホテルから出発				車4台
	07：45	障がい児学校到着	1）NDC病院の小児科とリハビリ科の代表、 2）保健局の代表、 3）教育研修局の代表、 4）社会労働傷病兵局の代表、 5）障がい児学校と新しいセンターの全職員、 6）幼稚園の代表、 7）CBR委員会の代表、 8）貧困者・障がい者・孤児支援協会の代表	障がい児学校	SVCA	
	08：00	08：00　Thuy　新しいセンターの紹介				
		08：30　NDC病院の小児科　胎児期から出産期における障がいを発見するサイン				
		09：45　教育研修局の児童教育課　1）幼稚園期の障がい児の認定、 2）学校期の障がい児とその親を支援する計画 3）自分の学級で障がい児を教える教師の困難				
	11：00	昼食				
	12：00	12：00　省又は郡のCBR委員会　1）CBR委員会が地域で障がい児の存在を知るやり方とその後 2）CBR委員会の障がい児とその家族の支援の計画 3）地域にどのような障がい児が多いか				
		13：15　野中　小児科医から見た日本の早期支援の紹介				
		14：15　甲斐　理学療法士から見た日本の早期支援の紹介				
		15：15　藤田　幼児保育の専門家から見た日本の早期支援の紹介				
		16：15　質問				
	16：30	講習会終了				車4台
	18：00	夕食		ブンブンホテル		

	時刻	主な活動	要請する参加者	要請する会場	財源	準備物
5日（水）講習会 2-①	06：30	朝食				
	07：15	ブンブンホテルから出発				車3台
	07：45	障がい児学校到着	1）教育研修局の代表、 2）社会労働傷病兵局の代表、 3）障がい児学校と新しいセンターの全職員、 4）幼稚園の代表、 5）CBR委員会の代表 6）貧困者・障がい者・孤児支援協会の代表	障がい児学校	SVCA	
	08：00	08：00 仁木・山本・大野 日本の特別支援教育				
		09：45 休憩				
		10：00 森永・鈴木 コミュニケーションの発達				
		11：30 質疑応答				
	12：00	昼食				
	13：00	13：00 松山 日本の医療ソーシャルワーカーの仕事				
		14：00 仁木・福山 親の思い				
		15：00 福田 障がいのある子ども達や家族の人達とかかわる中で学ぶこと				
		16：00 質疑応答				
	16：30	講習会終了				車3台
	18：00	夕食		ブンブンホテル		
5日（水）講習会 2-②	06：30	朝食				
	07：30	ブンブンホテルを出発				
	07：45	NDC病院に到着	NDC病院の小児科とリハビリ科の代表、(可能ならケーススタディ用の入院児童)	NDC病院		
	08：00	08：00 坊 ケーススタディ、呼吸管理のリハビリテーション				
		10：00 休憩				
		10：15 峯松 装具について				
		11：15 質疑応答				
	12：00	昼食		ブンブンホテル		車1台
	13：15	ブンブンホテルを出発				
	13：30	13：30 別府 けい性麻痺と弛緩性麻痺の判別について				
		15：30 質疑応答と今後の研修について				
	16：30	講習会終了				車1台
	18：00	夕食		ブンブンホテル		
	時刻	主な活動	要請する参加者	要請する会場	財源	準備物
6日（木）講習会3	06：30	朝食				
	07：15	ブンブンホテルから出発				車4台
	07：45	障がい児学校到着	1）NDC病院の小児科とリハビリ科の代表 2）保健局の代表 3）教育研修局の代表 4）社会労働傷病兵局の代表、 5）障がい児学校と新しいセンターの職員 6）幼稚園の代表 7）CBR委員会の代表 8）貧困者・障がい者・孤児支援協会の代表 9）障がい児を育てる20家族	障がい児学校	SVCA	
	08：00	08：00 内藤・大西 生活とリハビリテーション				
		09：45 休憩				
		10：00 西村・小池 作業療法：遊びや環境調整を通した子どもの変化				
		11：45 質疑応答				
	12：00	昼食				
	13：00	お祭り準備開始				
	13：30	お祭り開始 1）障がい児学校生徒の音楽や踊り 2）日本の障がい児の踊り 3）ブースでの活動 ・障がい児学校と職業センターの製品の販売ブース ・日本伝統文化紹介（茶道と書道） 2ブース ・日本の遊びの紹介のブース 3ブース ・自助具や訓練用のおもちゃの展示紹介ブース				
	16：00	閉会 後片付け開始				
	17：00	障がい児学校を出る				車4台
	18：00	夕食		班ごと夕食		
	時刻	主な活動	要請する参加者	要請する会場	財源	準備物
7日（金）	06：30	朝食		ブンブンホテル		
	07：15	SVCAのみでの午後からの会議に向けてのまとめ協議と資料作成				
	11：30	昼食				
	12：30	資料作成継続グループ継続				
		家庭訪問グループ出発 15時30分にはホテルに戻ること	ブンブンホテルに近い在宅障がい児1軒、担当のCBRワーカーさん	近隣の家庭訪問1軒		車2台
	15：40	ブンブンホテルから出発				徒歩
	16：00	ベンチェ省人民委員会と関係機関の代表との会議、今回のまとめと次への課題（SVCA全員と通訳など、約50人）	1）人民委員会 2）NDC病院 3）保健局 4）教育研修局 5）社会労働傷病兵局 6）障がい児学校と新しいセンター 7）CBR委員会 8）貧困者・障がい者・孤児支援協会	省人民委員会会議室		スライドプロジェクター
	18：00	ベンチェ省幹部を招いての夕食会		ブンブンホテル	SVCA	
	時刻	主な活動	要請する参加者	要請する会場	財源	準備物
8日（土）	06：30	朝食。チェックアウト、荷物はレセプションへ運ぶ		1台には8日泊まる人の荷物を積む トラック1台には帰国する人の荷物を積む		
	07：30	ブンブンホテルから出発				
		ホーチミン市に行く途中のどこかで昼食				
	14：00	ABC車3台：観光・買い物 D車1台：長年通訳をしてくださったフォンさんのお墓参り				
	18：00	空港近くのレストランに到着後夕食				
	20：30	閉会後空港へ、残留組はホテルへ				